

■片岡健吉 政党政治家。土佐派領袖として、自由民権運動を先導、キリスト教徒にもなって挑戦、最後は衆議院議長に。

かたおかけんきち

順天堂始・1843＝ 高知中島町(高知市本町)で、代々お馬廻役として知行200石を受ける上士の家柄高知藩士片岡俊平の長男(第三子)に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 2歳：

万次郎帰国・1852＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝10歳：

世子(のち藩主)山内豊範のお伽役・側小性を経て、

桜田門外変・1860＝17歳：

遣欧使節・1861＝18歳：

8月18日政変 1863＝20歳：藩の郡奉行・普請奉行となる。

明治維新・1868＝25歳：戊辰戦争に際しては、藩兵を率いて各地に転戦した。

戊辰戦争終・1869＝26歳：藩中老職、藩の軍政改革にあたり、

初の日刊新聞1870＝27歳：

薩藩置県・1871＝28歳：土佐藩権大参事となる。藩より選ばれて欧米を視察し、

学問のすすめ1872＝29歳：帰国。海軍中佐に任ぜられたが、征韓論を支持して敗れ、下野した板垣退助らに従って、

明治6年政変 1873＝30歳：官を辞した。土佐に帰り、

佐賀の乱・1874＝31歳：*自由民権運動に身を投じて{立志社}を創立。議長に推され、

初の民間工場1875＝32歳：愛国公党主催の自由民権運動の会議に参加し、{愛国社}創立に加わる。また{立志社}社長となり、

自由民権運動の推進に尽力する。

西南戦争・1877＝34歳：西南戦争に際して、林有造ら{立志社}内の武力挙兵論に反対し、政府弾劾と民選議院設立を要求する建白書を政府に提出したが受理されず、かえって挙兵論者の検挙に連坐、禁獄百日の刑に処せられた。

琉球処分・1879＝36歳：高知県議員に当選し議長に選ばれたが、普選を唱えて辞職。

1880＝37歳：

愛国社大会議長となり、国会期成同盟を結成、河野広中と国会開設請願書を太政官に提出して却下され、

明治14年政変 1881＝38歳：立志社社長を辞任し、高知新聞社社長。自由党の結成に参画、各地に遊説して党勢拡張に努力、

新体詩抄・1882＝39歳：海南自由党を結成。

秩父事件・1884＝41歳：自由党解党大会にも議長を勤めた。キリスト教に近づき、高知教会の設立に尽力、

内閣発足・1885＝42歳：*受洗し、高知教会長老になる。

国民之友始・1887＝44歳：三大事件建白運動に参加、保安条例による東京からの退去命を拒否、軽禁錮2年6ヵ月を宣告された。

初の対等条約1888＝45歳：

帝国憲法発布 1889＝46歳：憲法発布の大赦で出獄。

帝国議会始・1890＝47歳：愛国公党、立憲自由党の創立にあたり、第1回衆議院議員総選挙で高知県第2区から当選。第一議会では竹内綱・林有造・植木枝盛らとともに政府と妥協して予算案成立に尽力、

足尾鉍毒始・1891＝48歳：立憲自由党を脱党したが、復党。

大本教・1892＝49歳：第2回総選挙では松方内閣の選挙干渉により落選したが、開票の不正を裁判に訴えて当選が認められた。

以後、第8回総選挙まで連続当選。自由党(のち憲政党・立憲政友会)土佐派の領袖として重きをなし、

日清戦争始・1894＝51歳：衆議院副議長。この間、自由党と第2次伊藤内閣との提携を進めたが、自由党と第2次松方内閣に対しては、党内の提携派を抑えて、野党的立場の堅持をはかった。

八幡製鉄始・1897＝54歳：

子規句歌革新 1898＝55歳：*衆議院議長となり、没する直前まで勤める。進歩党との提携による憲政の結成、

ピアノ国産化・1900＝57歳：立憲政友会の創設にも参画するも、次第に党内での指導力が弱まり反主流派的立場に立たされ、

教科書疑獄・1902＝59歳：*基督教青年会理事長・同志社社長兼校長就任など、キリスト教教育の発展にも貢献したりしながら、

日比谷公園・1903＝60歳：政友会の桂内閣への妥協に反対し、林有造らと脱党。高知市の自宅で、腸閉塞により、没した。